

## 「無用の話の楽しさこそ有用な話になる」

校長 高田 晶子

梅雨入りとともに、気温の変化が激しい日々が続いています。暑さ対策も必要となり、体調管理に気を遣う季節となりました。そのような毎日ですが、1学年の校外学習、3学年の修学旅行も予定通り実施ができ、学校内も少しずつ活気が出てきたところ です。



今月は、学校総合体育大会も実施予定です。コロナ禍でも活動を行える喜びをしっかりと味わい、毎日を大切に過ごしていきたいと思っておりますので、応援よろしくお願ひいたします。

さて、「おしゃべりは好きだけど、話をするのは苦手です。」という人は多くいるのではないのでしょうか。英文学者、文学博士の外山滋比古氏は、著書「日本語の作法」の中で、「用のないのに話すほどおもしろいことはない。」と述べています。そして、「必要があつて話をするのは仕事に多く、楽しいわけがない。気のおけない相手と、用もないのに会つてしゃべるのは精神的健康にも大変効果がある。」と続くのです。

おしゃべりの場面をいろいろ思い起こしてみると、本当にそう感じます。改まって話をしようとする時、何を話していいのか緊張したり、言葉が出なかったり。その反面、おしゃべりをしている時の笑顔や、楽しそうな身振りや手ぶりは、見ているだけでも元気になります。そう考えると話の中身は無用かもしれませんが、話をするという行為は、大いに有用であるということになるのではないのでしょうか。しかし、このおしゃべりはコロナ禍で制限されてきたことばかりではなく、「話をする時は、きちんと話す。」ということ子どもたちに強く求められるようになり、どうやって話せばいいのかという悩みを持たせてしまったようにも思います。

今年度は学校行事も順調に実施することができ、生徒たちの日々の会話や表情が豊かになりつつあります。6月2日～4日に、3年生と修学旅行に行きました。2泊3日の中で、お互いに声を掛け合う姿は、この「無用の話の楽しさ」を繰り返して行っていたんだなと感じました。消灯後のひそひそ話や早朝のこそこそ話も、「無用の話の楽しさ」の充実した時間だったのでしょう。他人との関わり方で悩む生徒が多かった昨年度とは、変化を感じています。たくさんのおしゃべりの機会のお陰で、仲間から元気をもらっているということでしょうか。

今年度は、ご家庭で学校生活について「どうだったの?」「それで?」「それから?」と、おしゃべりが途切れない様子が想像されます。写真や動画で確認作業をするより、お子様と「無用の話の楽しさ」を味わっていただける幸せな時間が増えることを願ひます。